

# 民国時期の顏真卿の作品の影印について

——上海求古齋書局の『顏魯公叢帖』を中心に——

宮崎 洋一

はじめに

民国年間に出版された顏真卿の影印の中で、上海求古齋書局の出版した『顏魯公叢帖』正集十冊・続集十冊は、質量ともに際だった存在と考えられる。しかし、その出版の経緯などについては、はっきりしない部分がある。本稿は、その出版経緯の一端を明らかにするとともに、民国時期の顏真卿の影印における同書の位置について考えようとするものである。

## 一、基本的な書誌

まず基本的な書誌について、整理しておきたい。<sup>①</sup>

『顏魯公叢帖』は顏真卿の作品四十二種を影印したもので、正集・続集それぞれ十冊、各冊三十一丁前後の線装本である。正集・続集どちらも、縦二六・二センチ・横一五・六センチ、表紙を含めた紙質、いずれもほとんど変わらない

い。

封面表は、正集が譚澤闔、続集が汪仁壽によつて、「顏魯公叢／帖正集（または續集）」（／は改行を示す）と書かれている。封面裏は劉春霖によつて、「歲次甲戌秋九月／碧梧山莊影印／求古齋書局發行」と書かれているが、正集・続集は同じもので、続集が右上に「后雲仙館」の印が加えられているだけである。また、正集・続集とも第十冊の末尾には奥付があり、「顏魯公叢帖正集（または續集）」（全部十冊）／定價大洋十元／影印者 上海求古齋書局／発行者 新開路二七一街一二號／上海求古齋書局」とあるが、発行年などはない。このため、この封面裏の「歲次甲戌秋九月」の記述から、『顏魯公叢帖』は一九三四年（民国二十三年）の発行とされている。

各冊の題簽は、正集の第一冊が譚澤闔<sup>⑤</sup>、続集の第一冊が劉春霖による以外は、正集・続集いずれも同じ人物で、第二冊が潘齡皋<sup>⑥</sup>、第三冊が湯滌<sup>⑦</sup>、第四冊が錢經銘<sup>⑧</sup>、第五冊が顧鵬<sup>⑨</sup>、第六冊が汪琨<sup>⑩</sup>、第七冊が汪仁壽、第八冊が王杞<sup>⑪</sup>、第

九冊が周浹<sup>12</sup>、第十冊が周岳<sup>13</sup>によって書かれている。

正集第十冊に付された王妃の「甲戌（一九三四年）歳寒」の跋文には、

老友求古齋主人周鍾慶先生……畜意經營十餘年矣。或借之藏家祕笈、或以重值購得、共集四十餘種。

とあり、続集第十冊の末尾にある周鍾麟<sup>14</sup>の跋文には、

愚自搜羅魯公諸碑帖已十餘年、計得四十餘種、共分正續兩集。

とあるから、『顔魯公叢帖』正集・続集の編者は、封面や題簽などに名前のある十一名ではなく周鍾麟であり、しかもこの周鍾麟の跋文の末尾には、「乙亥春月 梁溪周鍾麟謹識於求古齋」とあるから、少なくとも続集は、一九三五年春以降に刊行されたものであろう。

## 二、「預約様本」から見る出版経緯について

『顔魯公叢帖』出版の直前に、求古齋書局がその預約を募った「預約様本」（様本）は頁見本の意か）が出された。その中に、『顔魯公叢帖』の「影印縁起」などが記されたものがあり、その出版経緯などを知ることができる。筆者が実見し得た「預約様本」は下記の四種で、大きさはいずれも『顔魯公叢帖』とほぼ同じで、線装本である。それぞれの「預約様本」の概要とその特徴は下記の通りである。

### 『二十種預約様本』A（以下「様本A」）

【表紙】袋綴じ一丁。表に「二十種預約様本 求古齋書局影印」の題。裏に「影印顔魯公叢帖縁起」（図一、翻刻一。翻刻の傍点および顔貞卿以外の人名への傍線は筆者。以下同じ）があり、この「縁起」に『顔魯公叢帖』の出版の意図などが書かれる。しかし、『顔魯公叢帖』では、李瑞清が『放生池碑』に付した跋文を、『顔魯公叢帖』全体の例言として巻頭においたので、この「縁起」はつけられていない。

【様張】袋綴じ二十二丁。預約を募った二十種のうちの十六種の書籍の頁見本。『顔魯公叢帖』の部分は紙も同じものである。

【提要】袋綴じ四丁。預約を募った二十種の書籍の提要。『顔魯公叢帖』は正集・続集に収められた作品に対する提要。

【一覧表】【簡章】折り込み一枚。表に「求古齋書局二十種半價預約一覧表」。裏は朱刷りの「二十種預約簡章」（図二、翻刻二）。

【定単】一枚。ミシン目が入った朱紙の「預約定單」。

【裏表紙】一枚。

『顔魯公叢帖』の預約を募った、おそらく最初の「預約様本」である。「影印顔魯公叢帖縁起」には、「蒐羅所得、計達二十七種。」とあり、当初、二十七種の商品

の影印を計画しており、さらに【提要】の中の『顏魯公叢帖』の部分には、正集・続集それぞれに、

全部八冊 定價洋十元 預約五元 郵費二角三

とあつて、それぞれ十五種と十二種の作品の提要が書かれている。それに続く「求古齋書局二十種半價預約一覽表」には、『顏魯公叢帖』は、正集・続集ともに「版次」は初版、「紙料」は中國連史、「版式」は四開本で、「預約截止期」は

自廿三年十一月二十日起、本埠至十二月底截止、外埠展期至廿四年一月十五日截止

とあり、「出書期」は、正集が「廿四年一月二十日」、続集が「廿四年四月底」となっている。『顏魯公叢帖』は、当初から、正集・続集を、一九三五年はじめに、ほぼ同時に出版することが計画されていたことがわかる。

さらに、この「二十種預約簡章」の「九 贈送書箱」には、

二十種預約内、有正續集或初二集如兩集同時合定者、得贈式樣精美之冲楠木書箱一只（當代明畫大觀在外）。但祇以自取書者爲限。外埠函定則因書箱不便郵寄、改贈古雅厚布書套。

とあり、正集・続集を両方同時に預約した者で、上海の求古齋の店頭で直接本を受け取る預約者には書箱が、

上海以外の郵送の預約者には書帙がつけられていたとすることである。<sup>17)</sup>

書かれている預約の開始時期と、次の様本Bに付された「顏魯公叢帖增訂十五種啓事」に「故於廿三年十一月間印成様本、…」とあるので、この様本Aは一九三四年十一月の發行であろう。

### 『二十種預約様本』B（以下「様本B」）

内容は様本Aと同じだが、【様張】と【提要】の間に「顏魯公叢帖增訂十五種啓事」（図三、翻刻三）が加えられているもの。

この「顏魯公叢帖增訂十五種啓事」には、様本Aでの引用の後に、

又適蒙錫山汪仁壽先生假得顧山顧氏家藏忠義堂帖十餘種。…今得列入叢帖中、…全部共四十二種、每集增訂二冊、合計正續集各十冊、而售價則仍照前定每集定價洋十元。

とあり、汪仁壽が顧山の顧氏家藏の『忠義堂帖』を借りることができ、そこから「十余種」（正確には十五種）を加えて四十二種とし、正・続ともに価格は「洋十元」のままにして十冊に増訂した、とある。

ただ、【表紙】裏の「影印顏魯公叢帖緣起」は「二十七種」のままであり、提要や「二十種預約簡章」等も、冊数・内容・預約締め切りなどに訂正や変更がないの

で、「二十種A」に、急ぎ「顏魯公叢帖增訂十五種啓事」を加えて作られたもので、様本Aよりは少し遅れるが、この様本Bも一九三四年十一月中の発行であろう。

### 『二十種預約様本』C（以下「様本C」）

【表紙】 表の題は様本A・Bと同じだが、「發售第二期二十種半價預約啓事」が書かれている。また、裏の「影印顏魯公叢帖緣起」は、「二十七種」から「四十二種」に訂正されている。

【様張】 様本A・Bと同じ袋綴じ二十二丁だが、内容は異なる。またこの後に、大きさの異なる袋綴じ七丁で、様本A・Bには無かった四種の書籍の頁見本が加えられている。ただ補修の後があるので、発行後に補われた可能性もある。

【提要】 袋綴じ四丁。『顏魯公叢帖』の提要は、正集・続集とも「全部十冊」に改められ、四十二作品に対する提要になっている（図四、翻刻四）。

【一覽表】 【簡章】 折り込み一枚。表に「求古齋書局發售第二期二十種預約價目表」。裏は黒刷りの「二十種半價預約第二期發售簡章」。

【定單】 一枚。ミシン目が入った朱紙の「預約定單」。

【裏表紙】 一枚。裏（裏見返し）に『雀巢名畫大觀彙刊』の提要が記されているが、この書籍は二十種には

無いので、この【裏表紙】はあとで補われた可能性がある。

同じ「二十種」だが、様本A・Bとは異なるところが多い。「發售第二期二十種半價預約啓事」に「繼續發售第二期二十種半價預約二個月」と書かれ、「二十種半價預約第二期發售簡章」の「預約日期」に「民國二十四年四月底截止」とあるので、おそらく一九三五年二月の発行であろう。

### 『二十七種預約様本』（以下「様本D」）

装丁は様本A・B・Cと同じだが、内容は二十七種の書籍となっているもの。

【表紙】 袋綴じ一丁。表に「二十七種預約様本 求古齋書局影印」の題。裏に様本A・B・Cの【一覽表】にあたる「二十七種半價預約定價表」がある。この二十七種は、上記の様本A・B・Cの書籍と比べると四種が削除され、新たに十一種が加えられている。

【様張】 袋綴じ十八丁、折り込み二丁。預約を募った書籍の主なもの、の頁見本。

【簡章】 【提要】 五枚十頁。最初に「二十七種半價預約簡章」があり、その裏の頁から預約を募った書籍の提要が書かれる。ただ、二十七種の最後の方にある四種の提要だけがないので、頁が揃っているかは不明。

【裏表紙】 一枚。ただし後補の可能性がある。また様

本A・B・Cにつけられていた「預約定單」は無い。もともと無かったのか、発行後になくなったのかは不明。

「二十七種半價預約簡章」の「預約日期」には、「民國二十五年十二月一日開始」と書かれているので、一九三六年十一月か十二月初めの発行であろう。

『顏魯公叢帖』の提要は二頁からなる（図五、翻刻五）。前の頁には様本Cの「影印顏魯公叢帖緣起」を改め、さらに題跋の数やその書者などを書き加えた縁起と、全体の冊数・価額、正集・続集の内容目録などが書かれている。『顏魯公叢帖』にその記述は無いが、前頁上と「發售再版半價預約」とあり、縁起の最後にも「再版」と書かれているので、この預約を募ったときに『顏魯公叢帖』が再版されたのかもしれない。

後の頁には、「選本預約五種」として、『東方朔畫讚碑』二冊・『麻姑仙壇記』二冊・『大唐中興頌碑』三冊・『郭敬之家廟碑銘陰合』三冊・『顏勤禮神道碑』二冊を、単行本として売り出し、半価で預約を募る広告とその提要が書かれている。

以上四種の様本から、『顏魯公叢帖』は次のように編集・出版されたであろう。

（1）当初は、一九三四年十一月に、正集八冊・続集八冊で、二十七種の作品から成る書籍が編集されて預約を募り

始め、正集は一九三五年一月二十日、続集は一九三五年四月末に出版するよう計画された。

（2）預約を募り始めた直後に、『忠義堂帖』所収の作品で、計画になかった作品十五種を急ぎ加えて正集十冊・続集十冊になるように編集し直された。しかし、価額や出版時期などは変更せず、正集は一九三五年一月に、続集は一九三五年四月に、出版された。

（3）正集の初版が出版された直後の一九三五年二月に、改めて一九三五年四月末までの締め切りで預約を募り、一九三五年六月に、正集・続集あわせて預約者に送った。

（4）一九三六年十一月か十二月初めに改めて預約を募った際には、「再版」と書かれ、別に『顏魯公叢帖』中の五作品については、単行本が作られた。

以上の経緯から考えれば、『顏魯公叢帖』の編者は周鍾麟で、その出版は、正確には封面裏の「甲戌」（一九三四年）ではなく、正集を含めて一九三五年で、正集は一月、続集は四月末の出版であり、続集末尾の周鍾麟の「乙亥春月」の跋文は、正集出版の直前または直後に書かれたものであろう。

### 三、増補された十五種の作品について

改めて『顔魯公叢帖』所収の作品とその影印丁数を順に整理したものが表1で、太字が増補された十五種の作品である。

続集第十冊最後の「廣平碑帖」のあとに、『忠義堂帖』に対する祁雋藻の咸豐十一年（一八六一年）の跋があるので、発行直前に増補した際に利用された『忠義堂帖』は、張穆（一八〇五—一八四九）が摹し一八六一年に上石された翻刻本であろう。

拙稿「法帖所収の顔書一覧—浙江省博物館蔵の南宋拓『忠義堂帖』に寄せて—」において指摘したとおり、日本では、『忠義堂帖』の翻刻は、呉式芬（一七九六—一八五六年）による本が知られている。しかし、「與蔡明遠帖」「鄒遊帖」「二行帖」のように、呉式芬翻刻本には収められていないが、張穆翻刻本には収められている作品が増補されたことから、張穆翻刻本をよって増補されたことは明らかである。

拙稿では、今日感じられているほど、『忠義堂帖』が普及していなかったことを指摘した。『顔魯公叢帖』の発行直前に、『忠義堂帖』から十五作品が増補されたこと、「御史帖」「南来帖」などのように、呉式芬翻刻本にしか収められていない作品が、この『顔魯公叢帖』に収められていないこと

は、民国年間においても、『忠義堂帖』の翻刻が広まっていなかったことを改めて物語っている。

### 四、『王羲之彙帖大観』および有正書局の影印

前掲の様本Dに書かれていた、『顔魯公叢帖』の五種の単行本は、後に『顔魯公叢帖』所収のすべての作品に広げられた。筆者が実見した単行本の『東方朔畫讚碑』の末尾には、二十六冊に編集し直された『顔魯公叢帖』全ての単行本の目録と価格が書かれている（図六）。『顔魯公叢帖』正集・続集の作品と単行本との関係を整理するならば、表1の右列のようになる。多くの顔真卿の作品が単行本としても影印され、その普及に役立ったのではないかと思われる。

様本Aの「一覧表」には、別に『王羲之彙帖大観』が載せられ、預約が募られている。筆者は未見だが、二版で、中國連史・四開本・十冊、定価が十元、預約価が五元、郵費が二角三分とあるから、『顔魯公叢帖』の半分、正集または続集だけとほぼ同じ大きさ・丁数・装丁の書籍であろう。様本Aの「提要」によると、その内容は表1の十五種である。最後の「宋拓淳化草帖」に、百六十種あるとされる。『淳化閣帖』巻六・八の王羲之の書の全てが収められたとすれば、作品数は顔真卿をはるかに超えるけれども、正集・続集で出版された『顔魯公叢帖』の冊数の多さと書籍の価



格の総額の高さが改めてよくわかる。

本稿で用いた「様本」に先立ち、求古齋書局は、一九二七年の序を持つ『上海求古齋金石書畫碑帖圖書目錄<sup>24)</sup>』を出版している。表3に整理したように、この中には顔真卿の影印が九種、王羲之の影印が三種、それぞれ各1冊が載せられている。『十七帖』は二十九種の王羲之の書が収められているので、作品の数としては王羲之が多いが、書籍の種類はやはり顔真卿が多く、この傾向が、後の『顏魯公叢帖』につながっているのかもしれない。

しかし、この顔真卿の影印が多い傾向は、民国時期の他の出版社にも見られるわけではない。表2は、求古齋書局に先立って、多くの書の影印を「珂羅版」などの新しい技術で出版していた上海の有正書局の影印について、菅野智明「有正書局法書影印書目稿」<sup>25)</sup>から、王羲之と顔真卿のデータを抜き出したものである(No. は菅野氏の付したナンバーで、太字は「珂羅版」、そのほかは「石印」である<sup>26)</sup>)。『十七帖』の内容が二十九種であることを改めてあげるまでもなく、有正書局では、王羲之の影印の方が影印の数が多く、また価格の総額も高い。前節での『忠義堂帖』があまり広がっていないことを考えれば、この時期の王羲之と顔真卿の影印の傾向は、むしろこの有正書局の出版状況の方が一般的ではなかったかと思う。また、顔真卿に限っても、有正書局の行書の影印は、「祭姪稿」「争坐位稿」

「行書範本」の三種だけで、『顏魯公叢帖』に比べて少ないし、楷書の影印もかなりの出入りがある。

## おわりに

本稿では、『顏魯公叢帖』の成立過程を明らかにし、一九三五年初めの出版直前に、作品を約一・五倍に増やして出版したことを明らかにし、その増補の内容から、改めて『忠義堂帖』が普及していなかったことを確認した。また、求古齋書局は、王羲之に比べて顔真卿の影印が多いことも指摘した。

有正書局をはじめとする先行の影印との違いを出す必要もあつたであろうが、王羲之に比べて顔真卿のへの比重が高く、その内容が充実している点で、求古齋書局の『顏魯公叢帖』は、顔真卿の作品の影印として特別な意味を持っている。

様本Dに「再版」とあるので、『顏魯公叢帖』は予想以上に売れたのかもしれない。しかし、価格から考えれば、『顏魯公叢帖』は正・続あわせると、『王羲之彙帖大観』の二倍であり、その選本も、有正書局と簡単に比較できる「多寶塔碑」「東方畫像讚碑」「顏勤禮碑」「争坐位帖」では、いずれも『顏魯公叢帖』の選本の価格が割高である。それぞれの刷数、ひいてはどの程度売れたかは不明だが、『顏魯公叢

帖』の出版によって顔真卿の作品がどれほど普及したかは、改めて考えなければならない。

注

- (1) 筆者の実見し得た本は、題箋がすべて残っており、虫損も少なく、おそらくもとの形をとどめた本と思われる。
- (2) 一八八五～一九四七年、瓶齋。父譚鍾麟一八二二～一九〇五年、兄譚延闓一八七九～一九三〇年。王中秀・茅子良・陳輝編著『近現代金石書畫家潤例』（上海画報出版社、二〇〇四年。以下「潤例」）四六六頁、陳玉堂編著『中国近現代人物名号大辞典』全編増訂本（浙江古籍出版社、二〇〇五年。以下「近現代」）一三〇一頁。
- (3) 一八七五～一九三六年、室名碧梧山莊。近現代五四一頁。
- (4) 一八七二（または一八七五）～一九四四年、字潤琴。近現代二七四頁。
- (5) ただ、この題箋は封面を置き直したものであろう。
- (6) 一八六七年～一九五四年、字錫九、号葛城居士、河北安新人。 <https://baike.baidu.com/item/%E6%BD%8%E9%BE%84%E7%A%8B>（二〇二一年一月九日閲覧）。
- (7) 一八七八～一九四八年、字定之・夢曾。江蘇武進（今江蘇常州）人。湯貽汾の曾孫。潤例四五四頁、近現代三〇五頁 <https://baike.baidu.com/item/%E6%B1%A4%E6%B6%A4>（二〇二一年一月九日閲覧）。
- (8) 錢銘、字寄蠡。江蘇無錫人または江蘇武進人。 [http://test.xlysauc.com:8079/auction5\\_det.php?ccid=192&id=16965&n=](http://test.xlysauc.com:8079/auction5_det.php?ccid=192&id=16965&n=)

455（二〇二一年一月九日閲覧）。

- (9) ？～？年、翔生、号適軒、上海人。楊逸『海上墨林』四卷（江東書局、一九二八年）に跋。潤例一三四・四六七頁。
- (10) 一八七七～一九四六年、字仲山、江西婺源人、居上海。潤例四二六頁、近現代二七四頁。
- (11) ？～？年、王念慈。『務敏廬山水潤例 一九二五年 寓派克路益壽里求古齋』潤例一五三・四一四頁。
- (12) 民国年間秀才、浙江衢州有名的教育家・書法家。 <http://news.qqz828.com/system/2010/10/09/010275009.shtml>（二〇二一年一月九日閲覧）。
- (13) 一九一六～二〇一六年、中医・書畫家。字愚山、号碧梧軒主。周鍾麟の子。 [https://k.sina.cn/article\\_1790270370\\_6ab55ba2001001a9z.html?from=ccl](https://k.sina.cn/article_1790270370_6ab55ba2001001a9z.html?from=ccl)（二〇二一年一月九日閲覧）。
- (14) 名毓仁、字鍾麟、号愧齋。子二、愚山（周岳）与寿石（周磐）。 [http://blog.sina.com.cn/s/blog\\_4996f7d90102z7ol.html](http://blog.sina.com.cn/s/blog_4996f7d90102z7ol.html)（二〇二一年一月九日閲覧）。
- (15) 本稿では、「預約様本」の書名や本文と重なるので、全て「預約」で統一する。
- (16) 一八六七～一九二〇年。江西臨川の人。字仲麟、晩年に清道人と号した。近現代四五五頁。
- (17) 筆者は実見し得た『顔魯公叢帖』は帙に納められていたが、その帙は後補のものであった。「式樣精美之冲楠木書箱」はどのようなものかは不明だが、同じ「求古齋書局二十種半價預約「覽表」」にある「魏碑大觀」初集・二集の箱を <http://book.kongfz.com/0/694509915/> で見ることが



できる（二〇二一年一月九日閲覧）ので、同じようなものではないかと思う。郵送の予約者への帙は、<http://book.kongfu.com/14735/1646471301/>（二〇二一年一月九日閲覧）などで見る事ができる。

- (18) 次節で取り上げる選本には、この「縁起」が納められている。ただ、その際には、末尾から四行目の「顧自出版以來：」以下がない代わりに、「茲將正續集全部目錄分列於後」と加えられている。

- (19) 容庚『叢帖目』第一冊（一九八〇年）八～十頁の目錄による。宇野雪村編著『法帖事典』三十八～三十九頁は、卷八が五種少ない。

- (20) 『文教国文学』第三十八・三十九合併号、一九九八年、pp. 246（1）～237（10）。<http://harp.lib.hiroshima-u.ac.jp/hbunkyo/metadata/5277>

- (21) ただ前掲注の目錄で張穆翻刻本に収められているとされる作品のうち、「顔昭甫告身」「訊後帖」は増補されていないが、その理由は不明である。

- (22) A～Eの五冊は、もとの順番とは異なっている。価格は、その書名の最初の作品に入れた。

- (23) 前掲注の容庚『叢帖目』第一冊（中華書局香港分局、一九八二年）一一四三頁。

- (24) 王燕來選編『歷代書畫錄續編』第二十冊（国家図書館出版社、二〇一〇年）の影印本を用いた。

- (25) 菅野智明『近代中國の書文化』（筑波大學出版会、二〇〇九年）「資料一」。

- (26) 「珂羅版」「石印」および冊数のデータは、桑椹整理「有

正書局影印碑帖出版物簡表」（『西泠藝叢』二〇一七年十一期、総第三十五期）を参照した。

- (27) 有正書局には、このほかに『淳化閣帖』『大觀帖』などの影印もある。

（本学教授）









- 三 約預憑單
- 四 取書手續
- 五 預約價目
- 六 定書款項
- 七 寄郵書費
- 八 免費匯款
- 九 贈送書箱
- 十 贈品辦法
- 贈閱樣本
- 附注

向上海本局面定者，收款時當付預約憑單。外埠通訊預定者，如其須預約憑單寄回，自行收存者，得在信內聲明本局收到款項，即將預約憑單寄上。如因預約憑單之往返手續麻煩，則此項預約憑單可由本局代為保存（但本局收到定書款項時，另行函覆為憑）。

面定者持預約憑單取書，外埠函定，如預約憑單留存本局者，各書出版按照定戶地址，由郵寄發。倘預約憑單係定戶自行保存者，須由定戶先將預約憑單寄下本局，收到此憑單，即將所定之書照發。

二十種預約，均售半價。例如定價十元者，期內預定祇售五元。（惟券額無多，過期恕不照例）。

預約書價與郵費，均照上海通用銀元為標準。各處之匯水升漲，均請照市加貼，或以上海通用二角以下之郵票，替代現金亦可。（惟祇九五折計算）。

外埠函定諸君，承蒙預定各書，回件掛號郵資，請照本局定章，連同書價一併寄下為盼。（但所定數目，祇限於國內及日本朝鮮等地。此外如蒙古、新疆與國外，請查照郵政章程加付為感）。

外埠惠顧諸君，訂購預約之款項，可由各地之中國銀行交通銀行免費匯滬。註明『上海新開路裕慶里求古齋書局收』。浙江、江蘇兩省，至壹百元為限，其他各省以十元為限。

二十種預約內，有正續集或初二集，如兩集同時合定者，得贈式樣精美之沖楠木書箱一只。（當代明畫大觀在外）但祇以自取書者為限。外埠函定，則因書箱不便郵寄，改贈古雅厚布書套。

特請名家精書篆隸魏草四種字體之『文昌帝君戒淫訓』，用金屬版精印三尺立軸，定購預約一種者，贈送單片一條。（四體隨點）滿四種者，贈送單片全堂，計四條餘照類推。

二十種預約樣本，合訂一厚冊。倘蒙函索，請附郵票六分（面索洋五分），隨即奉贈樣本一冊，并贈實洋五分之書券一紙。以後訂購預約時，可加入書價抵用。

外埠函定預約，回件地址及收件人姓名，來信務須詳細寫明，以後如有變更或遷移居住，請要早日來信通知，準可照改。（惟此項書信，須要掛號寄至本局，以免遺失）。

上海求古齋書局謹啓

地址 新開路醬園街西首裕慶里

電話 三〇三二二號

翻刻三（四三）

顏魯公叢帖增訂十五種啓事

謹啓者，敝局此次所印之顏魯公叢帖正續集，經十餘年之蒐集，嚴精鑒別，始得二十七種，屢承藝林諸君馳書敦促，不勝感荷。故於廿三年十一月間印成樣本，發售預約，正值已待露佈之時，而又適蒙錫山汪仁壽先生，假得顧山顧氏家藏忠義堂帖十餘種，其中雖屬小品，俱多，然均係精拓舊本，且爲塵世不經見之祕笈，並有祁雋藻清道人羅振玉鄭孝胥等之題跋，其寶貴概可想見。今得列入叢帖中，如此巧合，似有神護，是誠翰墨姻緣，良非虛語也。全部共四十二種，每集增訂二冊，合計正續集各十冊，而售價則仍照前定，每集定價洋十元，而萬年紅紙嵌頁，則每集改用上下各一頁，茲將全部目錄，重爲分編如左。

正集

放大多寶塔碑

離堆記殘碑

謝贈華州刺史表

送劉太冲敍

白雲堂帖

東方畫贊碑

送裴將軍詩

謝兼御史大夫表

與李太保帖

移蔡帖

大字麻姑仙壇記

放生池殘碑

讓憲部尚書表

與盧倉曹帖

寒食帖

小字麻姑仙壇記

宋拓爭坐位

楷書魯公告身

朱巨川告身

盧八帖

續集

大唐中興頌

宋拓祭姪稿

華嶽廟題名

鹿脯帖

與澄師帖

顏勤禮碑

行書自書詩

一行帖

鹿脯後帖

峽州帖

郭家廟碑

湖州帖

草篆帖

鄒遊帖

捧袂帖

郭家廟碑陰

脩書帖

送書帖

與夫人帖

廣平碑帖

與蔡明遠帖

守政帖

上海求古齋書局謹啓



翻刻四（四四）

顏魯公叢帖正集

▼全部十册 定價洋十元

▼預約五元 郵費二角三

唐拓／放大千福寺多寶塔碑

拓本極精，末尾之刻字完好，有董其昌、劉石庵兩跋，均稱其爲唐拓精本。劉跋謂其極便初學，董跋則云：「鞏基礎而正筆法，莫妙於此碑。」本局緣其既爲初學之鵠的，故以攝影法放大百分之二十，藉便臨池界之取法焉。

北宋／精拓東方朔畫像讚

是本有董玄宰及翁同龢兩家題跋，全碑祇損書字之下半。拓法尤精，據香光跋，攷係陳眉公所藏，所拓較王元美本在先，且精妙遠勝之。嗣後歸翁叔平氏所得，斷爲塵世僅見之本云。

宋拓小字／大字麻姑仙壇記

此碑筆力遒勁，爲魯公最得意作，亦後世最寶貴之書法也。惟世傳翻刻頗多，原本殊不易得。今此小字大字兩本，珠聯璧合，氈椎極精，有查士標、何子貞等題跋。何氏稱大字本較其所藏爲精，小字

本則在伯仲之間，且甚推重，其爲宋拓原本無疑。

原拓／舊本大字魯公自書告身

此書筆畫秀勁，神情氣節流露於字裏行間。王虛舟題跋稱其朗暢處與郭家廟碑相等，至其墨搨之佳，較董華亭戲鴻堂刻本過之，是亦魯公書中希世品也。

明拓／舊本鮮于氏離堆記殘／碑

此乃明初精拓本，經翁同龢鑒賞題跋，且經其審定次序，裝裱成冊，并云：「較清初拓本已多字不少，洵近代不易得之寶也。」

宋拓安氏／原刻精本爭坐位帖

〔字體・則用現代科學方法・一律均勻〕  
詞句・則照魯公文集整理・一氣貫通〕

坐位帖天真爛漫，動多姿態。自宋以來，推尊崇拜者，指不勝屈。惟原帖行格太長，字體又大小懸殊。董氏之刻戲鴻堂時，亦因其行款太長而重爲排列者。顧此時尚係墨守舊法，無科學之援助，致後出有病，其求工反拙者。今茲敝局此本，曾經錢南園待御撫臨四年之久，故有錢氏及何子貞之題語，證爲宋拓。安師文之原刻，惟亦以其行款太長，

特用科學方法，經五六次之攝影手續，雖小如黍粟之字，亦使之與大字一律，詞句則參照魯公文集整理，他如括塗改之處，則仍照其舊，如是則既無本來面目之失，且有天衣無縫之妙，經營既成，適爲錫山汪仁壽大書家所見，蒙其贊賞推譽，并爲詳加考注，題以長跋，謂如此苦心孤詣足當魯公千載以下之功臣，且使戲鴻堂本爲之減色。董香光氏爲之低眉，藝林之歌功，書家之頌便，又其餘事云云。（謬承贊揚如此，敝局雖不敢當，然於此帖之寶貴可想見矣。）

舊拓／精本送裴將軍詩

魯公此書體兼正行，具劍拔弩張之勢，雄強勁逸，有一掣萬鈞之力，是本經劉石庵相國何紹基太史之識跋，咸目爲舊拓善本。劉氏之稱謂顏書怪寶，何氏則盛贊南園用筆，大有酷似此帖之處。

〔丹徒／〕包氏／原刻／精拓謝贈華州刺史表

謝兼御史大夫表

讓兼部尚書表

以上魯公草稿三種，均爲丹徒包氏之原刻精拓（即簡稱三表者），此本兼有翁同龢題跋，謂與其所藏本紙墨相同，拓工亦如出一手，斷爲包氏

之初拓精本，并有楊守敬氏之考誌，謂確與端旬齋制軍所藏本相伯仲云。

〔精拓舊本／翁叔平跋〕送劉大冲敘 與李太保帖

盧倉曹帖 寒食帖 盧八帖

以上五帖，書法奇偉，別有異趣，敝局得此本時，原係合裝一卷，其送劉太冲敘之首行四字，均不缺，等夷之夷字，亦無訛。翁叔平信爲舊拓精本，並云錢南園書法之具有激昂慷慨者，實得太冲敘帖之三昧云云。

舊拓／精本朱巨川告身

此本係三希堂舊拓，有鄧文原題跋，稱爲公書之妙品者。（本局因公之自書告兩篇，均已列入，而此帖一時精刻難覓，故將三希堂原拓益之，其大小則與原底相同，視今石印縮本之絕鮮神韻者，相去遠矣。）

乞御書放生池碑額表殘碑

舊藏白雲堂帖 移蔡帖

上列三種，爲顧氏家藏之忠義堂帖，雖係殘碑斷碣，其拓本之精舊，實爲世間所僅見，並有李瑞清及鄭孝胥之題跋，名貴可知矣。

顏魯公叢帖續集

▼全部十冊 定價洋十元

▼預約五元 郵費二角三

宋拓／精本大唐中興頌碑

前賢有云，書至於顏魯公，魯公之書又至於中興頌。故魯公爲書家規矩準繩之大匠，於此帖又益明顯。蓋公之書碑，雖盡屬大字，然欲求其碩大近尺之擘窠書者，惟有中興頌而已。其書法之瑰璋奇秀，尤爲歷代冠。此本何紹基太史既題爲北宋精拓，鄰蘇老人又力證歐陽氏之語，且謂唐拓亦非過言。今以每幀影印二字，其字體照原底之大小相等，洵顏書帖中之獨一無二本也。

舊拓／精本華嶽廟題名

此碑即魯公謁金天王詞題記，拓本流傳極少，今由友人在故都訪得。此本紙墨古舊，且全碑字畫完全無損，有楊惺吾老人鑒跋，云其遒勁處較畫贊家廟等碑過之，亦顏書之珍貴品也。

出土／初拓顏勤禮神道碑

是碑乃魯公晚年傑作，至宋時即遭刳埋，沒於長安城中。民國十一年爲何客星營長掘出，當即手

拓百份，藉贈同好。甲子冬南海康有爲先生赴陝，劉雪雅督軍以此相饋，而康氏轉贈與同鄉莊太守。據康氏跋，稱此帖之可貴處，乃係初出土時未經磨過之拓本。（并云此碑之刳後，餘生與其一生遭際，同病相憐，故以此帖爲知音，而所跋更精彩絕倫。）

錢氏／舊藏宋拓祭姪稿

魯公祭姪季明文稿，文章字法，使人動心駭目，神妙無匹。王虛舟稱，顏書諸稿之中，而祭姪文尤其豪古跌蕩。此本與爭坐論同爲錢南園侍御所珍貴，其題跋稱，與爭坐論同爲無雙妙品云。所惜錢跋之後尚有何煥叟太史〔之〕跋，已遭燬爛爲可憾耳。

小字／行楷魯公自書告身

魯公自書告身，有大小兩種，小字本則楷行相兼，流利瀟灑，而其用意經心之處，與爭坐祭姪等之信筆隨揮者，又別饒韻趣也。

原拓湖州帖 與澄師帖

精本與夫人帖

湖州帖三希堂亦曾刊入，銀鈎鐵畫，老氣橫秋，其他二種亦復神彩煥發，妙到毫顛。凡愛魯公書者，

定必以先觀爲快也。

郭敬之家廟碑

郭氏家廟碑陰

（宋拓精本／戴氏家藏）

公書此碑筆力雄健，結體謹嚴，而其適勁朗暢，實爲顏書碑中之魁。王良常之崇拜魯公書者，以此帖爲最。戴醇士則尤終身服膺，此本即戴氏之家藏舊本，并有其題跋，歷述前賢考載，謂正碑與碑陰同爲魯公一手所出，而碑陰之行筆風神秀奕，爲公書之別具一格，故以兩碑合印公世，〔不特拓本之精舊可貴，且有璧合珠聯之妙。〕

舊拓與蔡明遠帖 脩書帖

守政帖 一行帖 草篆帖

送書帖 鹿脯帖 鹿脯後帖

峽州帖 捧袂帖 鄒遊帖

廣平碑帖

以上十二種同爲顧氏舊藏之忠義堂帖，雖屬小品，然其筆法挺秀，足爲顏書圭臬，得有祁雋藻羅振玉二家之識跋，尤稱寶貴。

翻刻五（四五）

顏魯公叢帖

發售再版半價預約

精拓原本四十二種：字體完整

名家題跋四十餘篇：博考詳證

影印優良：與原底不爽毫釐

價格低廉：請期內從速預定

書家之盛自晉南渡後，以有唐爲最。歐虞褚輩，擅大名於貞觀神龍之間。顏平原崛起於玄宗之時，追蹤魏晉，獨樹一幟。蓋魯公之爲人，英風義節，照耀千古。故其書法之慷慨激昂，橫溢於點畫之間。觀夫擘窠之雄壯，瑰偉楷書之端嚴，秀拔行草之縱筆適勁，是以千載而下，世相愛重。本局志在求古，而冀流通國粹，以數十載之徵集，嚴精鑒別，或以類分，或以體聚。問世已達千餘種，緣復羅致顏書，自長篇巨幅之名碑，尺紙寸縑之石刻，舉凡魯公生平得意之作，擘窠書與大中小楷行草，計四十二種，各體皆備。而拓本精舊，歷經昔賢鑒賞攷識，如董其昌、錢南園、劉石菴、王虛舟、王文治、翁方綱、何紹基、翁同龢、戴醇士、查士標、吳大澂、楊守敬、羅振玉、祁雋藻、李瑞清、康南海諸家題跋，都數十篇，均爲世間僅見之

祕笈，影印公世，藉資墨林之楷模，而成顏書

之全帙。卷首增訂仇十洲白描魯公像及文徵

明魯公小傳，俾後之學者得景仰其氣節，而與

書法並重焉。顧自出版以來，洛陽紙貴，初版早

已告罄。現值再版影印中，故特照紙料印訂成

本，發行半價預約，以期普及流傳。惟印額無多，

希速訂購。

正集十冊 定價國幣十元

▼預約半價五元……郵費二角三

續集十冊 定價國幣十元

▼預約半價五元……郵費二角三

全書用上等中國手工連史紙金屬版印，上下冊

加訂永久不蛀之特種廣東萬年紅紙，每集合裝

古雅厚布書套，兩集合購可改裝精美書箱，不另

加資。（惟因不便郵寄，故祇以面購者爲限。）

應於學者需要，特再發行選本預約五種：請閱下幅。

表1 『顏魯公叢帖』『王羲之彙帖大觀』内容一覧

顏魯公叢帖				
正集・続集各十冊、各洋十元			単行本	
	正続冊	丁数	冊数	価格
封面	正1	1	—	
目録	正1	1	—	
仇英顏魯公像	正1	1	—	
文徵明題	正1	3	—	
李瑞清跋	正1	4	—	
多寶塔碑	正1/2	44	2	1元2角
自書告身	正2	9	A	6角
東方畫像讚碑	正3/4	57	2	2元
放生池殘碑	正4	4	B	5角
小字麻姑仙壇記	正5	3	2	2元
大字麻姑仙壇記	正5/6	61	—	
爭座位帖	正7	33	1	1元
離堆記殘碑	正8	7	C	4角
白雲堂帖（書馬伏波語）	正8	6	B	
裴將軍詩	正8	18	1	6角
朱巨川告身	正9	6	A	
移蔡帖	正9	3	C	
送劉太冲敕	正9	5	1	4角
李太白帖（馬病帖）	正9	1	—	
盧倉曹帖	正9	2	—	
寒食帖	正9	1	—	
盧八帖	正9	3	—	
謝贈華州刺史	正9	8	2	1元2角
謝兼御史大夫表	正10	9	—	
議憲部尚書表	正10	21	—	
王妃跋	正10	2	—	
封面	続1	1	—	
目録	続1	1	—	
中興頌	続1/2/3	95	3	3元
顏勤禮碑	続4/5	61	2	2元
郭家廟碑銘・陰	続6/7/8	82	3	3元
祭姪稿	続8	8	D	7角
華嶽廟題名	続9	10	1	4角
行書自書告身	続9	3	A	
峽州帖	続9	3	1	3角
鹿脯前帖	続9	2	—	
鹿脯後帖	続9	2	—	
捧袂帖	続9	2	—	

與夫人帖	続9	3	E	
守政帖	続9	2	E	
脩書帖	続9	1	E	
與蔡明遠帖	続10	6	E	7角
鄒遊帖	続10	2	E	
湖州帖	続10	3	D	
草篆帖	続10	4	D	
送書帖	続10	3	D	
與澄師帖	続10	2	E	
一行帖	続10	2	E	
廣平碑帖	続10	3	E	
周鍾麟跋	続10	4	—	
合計	42種	20冊	26	20元0角

王羲之彙帖大觀 十冊、洋十元	
精拓佛遺教經	
原拓東方畫贊	
明拓周孝侯碑	
黃庭經	
曹娥碑	
樂毅論	
放大半截碑	
集古梅花詩	
臨鍾繇千文	
初拓開皇蘭亭	
唐模蘭亭	
神龍蘭亭	
肥本定武蘭亭	
北宋初拓精本聖教序	
宋拓淳化草帖增訂乾隆御考釋文	
合計	15種



表2 有正書局の顏真卿と王羲之の影印

顏真卿				
書名	No.	出版年	冊	價格
多寶塔碑	G-64	～1915	1	6角
	G-65	～1915	1	6角
東方畫贊	G-66	～1915	2	8角
麻姑山仙壇記	G-67	～1915	1	5角
	G-68	～1915	1	2元
	G-69	?	1	?
元次山碑	G-70	～1915	1	4角
八關齋會報德記	G-71	～1919		4角
竹山連句	G-72	～1919		2角5分
顏氏家廟碑	G-73	～1915	3	7角
顏勤禮碑	G-74	～1919	2	1元
大楷範本	G-75	～1920	1	1角2分
小楷範本	G-76	～1924		1角
祭姪稿	G-77	～1919	1	1元8角
爭坐位帖	G-78	～1915	1	3角
行書範本	G-76	～1920	1	9分
合計	13種			9元6角6分

表3 『上海求古齋金石書畫碑帖圖書目錄』の顏真卿と王羲之

書名	價格
顏真卿郭汾陽廟碑	1角5分
唐拓顏魯公多寶塔	3角
初拓顏魯公麻姑仙壇記	3角
唐拓大字顏魯公文廟碑	2角
初拓顏真卿大字詩品	2角
大楷顏魯公家廟碑	1角5分
中楷顏魯公法書	2角
小楷顏魯公四種	1角5分
小楷顏魯公三種	1角5分
王右軍草法至寶	2角
小楷樂毅論	1角
王右軍草書十七帖	3角

王羲之				
書名	No.	出版年	冊	價格
黃庭經	D-01	～1915		4角
	D-02	～1919	1	1元8角
	D-03	～1919	1	2元4角
	D-04	～1915	1	3角
	D-05	～1921	1	2角5分
樂毅論	D-06	～1919	1	8角
	D-07	?		3角
東方畫贊	D-08	?		2角
曹娥碑	D-09	?		2角
金剛經	D-10	～1915	1	3角
小楷範本	D-11	～1918		1角
大楷範本	D-12	～1920		1角
蘭亭敘五種				(D-04)
	D-13	～1915	1	1元
	D-14	～1915	1	2角5分
	D-15	～1915	1	2角
	D-16	1917	1	2元
	D-17	～1919		2元4角
	D-18	?		?
	D-19	～1915		6角
聖教序	D-20	～1915	1	5角
	D-21	～1915	1	6角
	D-22	～1916	1	4元
	D-23	～1919	1	4元6角
	D-24	?		2角
千字文尺牘墨蹟	D-25	1911		1元4角
	D-26	?		2角5分
行書範本	D-27	～1920		9分
十七帖	D-28	～1915	1	6角
	D-29	～1919	1	3元6角
	D-30	～1915	1	4角
	D-31	～1915	1	4角
	D-32	～1917	1	2元8角
合計	32種			31元0角4分